

事業報告書 (平成30年度)

事業名 人間関係の革命で世界平和の実現を ～子どもの笑顔で世界を平和に～

団体名 いろは邑 担当者名 笹治英昭

※活動の様子がわかる写真(データもお願いします)と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容(日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

日 時:平成30年11月23日(金)

場 所:Earth8eight

参加対象者:一般

人 数:大人24人、子ども6人の計30人(スタッフも含む)

内 容:幼稚園教諭、園長として約40年幼児教育に携わり、ハンガリーでのコダーイシステムを学び、ドイツ、イギリスにおけるシュタイナー施設での学びと実習を通して、コダーイシステムとシュタイナー教育、そして、日本の童謡や民話、伝承遊びを融合した幼児教育の実践をされ教育界にとどまらず多方面に多大な影響を与え、その実力が国内外で認められている池末みゆき先生を招いて、ライアー演奏とともに命を大切に心豊かに自然への畏敬の念を持ちつつ精神性を伝えていただく癒しと祈りの演奏と語り。愛を伝えるコミュニケーションと日本の国産である糶でつくられる糶料理によって、子どもたちの心と身体が整えられること、伝統文化の継承と環境保全の大切さについて学ぶ学習会を開催した。

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

- ・ 日常、身近な人との人間関係で、互いを理解し尊重し対立が起きた時は双方共が納得、満足して解決していくような民主的人間関係を構築していくことは、ESDそのものであるという意識を持てるようになるために、伝わるようにESDの理念、目的に触れながら取り組んだ。
- ・ 日頃から愛と信頼の相互理解の人間関係を保っていくことがESDに繋がることをより具体的に伝わる形にしていくように見直した。
- ・ 人間関係のあり方を伝えるのみならず、文化や伝統にも触れて、命・心を平穏に感謝と愛で育てていくことを加えた活動に見直した。
- ・ 地球に存在する人間を含めた命ある生物が、遠い未来にまでその営みを続けていくために、各自の存在の肯定、いわゆる自尊感情、そして自然への畏敬の心を抱き共生していく大切さを、心で感じ暮らしの中で意識できるような取り組みであるところ。
- ・ 命の繋がり、感謝の心、愛情が伝わるコミュニケーション、そして、伝統文化の継承が、ESD活動をしていくうえでの根幹であると意識して活動していく。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

- ・ 成果として、E S Dで育みたい力に挙げられている項目の中の「コミュニケーション能力」が向上することを参加者の人達に実証例として届けられた。
- ・ 親も子も自己肯定感が高まり他者を尊重し、あらゆる生命を大切にしようとするE S D理念に沿った活動となっている。
- ・ E S Dの基盤は人間関係を一人ひとりが自分らしく生きる盤石にしていく必要性があると確信が持てる実証を参加者の皆さまから得られた。
- ・ E S Dの普及活動に貢献していると確信できた。
- ・ 真実を知り、伝えることで各々が自分の生き方を見つめ直すと人は自ずとE S Dの目指すところに向けて貢献していくものなのだとの実証ができた。

ここからが参加者の感想

- ・ 自分自身を見つめ直し、自分の人生・子育てを振り返る機会になった。人間関係・子育てが劇的に改善された。
- ・ 親も子供も、人の心・命、自然環境、地球、未来に関心を持つようになった。
- ・ 日常の暮らしを見直すことが出来た。
- ・ E S Dの活動に直接参加している時だけでなく、E S Dの視点を意識しあるいは無意識に行動していると思うことが増えた。
- ・ 地球のあらゆる命について想いを寄せるようになった。
- ・ 自己の心の平安の中に、平和活動E S D活動の原点があると気付けた。
- ・ 伝統、文化の継承に直にふれられた。日常に活かしていきたい。

4. 今後の課題と展望

- ・ E S D活動を実際に行っている人たち、E S Dの普及活動をしている人たち、岡山市職員（E S D推進課）の人たちに参加していただくには、どのように工夫すればよいか、今回も参加がなかったのが今後の課題である。E S Dプロジェクト参加団体の人達に関心を持ってもらい積極的に多くの人に参加していただく。
- ・ 教育機関（学校関係、幼稚園、保育園等）との連携。
- ・ 行政との共働
- ・ E S D活動をしている人達との連携
- ・ 人間関係が人格や人生の形成の基盤であり、社会の基盤でもあるという根本、人間関係が改善されると現代のあらゆる問題が解決することを多くの人に気付いてもらえるような活動を展開していく。
- ・ 日本人らしいE S Dの活動を、岡山から世界へ向けて発信していく。
- ・ 誰一人も取り残さないと確証できる実績を残す。

